

この度は、「ズルい！合格法 医薬品登録販売者試験対策 出る順 問題集Z」をご購入いただき、誠に有難うございます。
試験問題作成に関する手引き(令和4年3月)の改正内容等を反映し、以下のとおり改訂させていただきます。
ご不便をお掛け致しまして申し訳ございませんが、何卒宜しくお願い申し上げます。

「ズルい！合格法 医薬品登録販売者試験対策 出る順 問題集 Z」改訂一覧表

◆令和4年4月7日

第1章 医薬品に共通する特性と基本的な知識				
No.	頁	該当箇所	誤	正
1	P3	問題1 解説	医薬品の使用上の注意において、乳児、幼児、小児という場合には、おおよその目安として、乳児とは1歳未満、幼児とは7歳未満、小児とは15歳未満をいう。	「医療用医薬品の添付文書等の記載要領の留意事項」において、新生児、乳児、幼児、小児という場合には、おおよその目安として、新生児とは生後4週未満、乳児とは生後4週以上、1歳未満、幼児とは1歳以上、7歳未満、小児とは7歳以上、15歳未満をいう。
2	P5	問題3 解説	b 正 問題文の通り。	b 正 問題文の通り。※現行の手引きでは「直ちに」が削除となっている。
3	P9	問題8 解説	d 誤 医薬品の使用上の注意においては、おおよその目安として65歳以上を「高齢者」としている。	d 誤 「医療用医薬品の添付文書等の記載要領の留意事項」は、おおよその目安として65歳以上を「高齢者」としている。
4	P15	問題13 解説	a 正 問題文の通り。	a 正 問題文の通り。※現行の手引きでは削除となった内容である。
5	P15	問題13 解説	d 誤 ヒトを対象とした臨床試験における効果と安全性の評価基準として、国際的にGood Clinical Practice(GCP)が制定されている。	d 誤 ヒトを対象とした臨床試験の実施の基準として、国際的にGood Clinical Practice(GCP)が制定されている。
6	P15	問題14 解説	イ 誤 疾病の根本的な治療がなされないまま、一般用医薬品を使用して症状を一時的に緩和する対処を漫然と続けた場合には、いたずらに有害事象を招く危険性が増すばかりでなく、適切な治療の機会を失うことにもつながりやすい。	イ 誤 疾病の根本的な治療がなされないまま、一般用医薬品を使用して症状を一時的に緩和する対処を漫然と続けた場合には、いたずらに副作用を招く危険性が増すばかりでなく、適切な治療の機会を失うことにもつながりやすい。※現行の手引きでは、「有害事象」が「副作用」に改正されている。
7	P21	問題20	エ 正 問題文の通り。	エ 正 問題文の通り。※現行の手引きでは、「異物等の混入、変質等があってはならない旨」が「異物等の混入、変質等がある医薬品を販売等してはならない旨」に改正されている。
8	P21	表 右側の枠 上から2つ目	臨床試験における効果と安全性の評価基準	臨床試験の実施の基準
9	P25	問題24 解説	イ 誤 副作用は、容易に異変を自覚できるものばかりではなく、血液や内臓機能への影響等のように、直ちに明確な自覚症状として現れないこともある。	イ 誤 副作用は、容易に異変を自覚できるものばかりではなく、血液や内臓機能への影響等のように、明確な自覚症状として現れないこともある。※現行の手引きでは「直ちに」が削除となっている。

第1章 医薬品に共通する特性と基本的な知識

No.	頁	該当箇所	誤	正
10	P31	問題29 解説	b 正 問題文の通り。	b 正 問題文の通り。※現行の手引きでは、「栄養機能食品は、身体の健全な成長や発達、健康維持に必要な栄養成分(ビタミン、ミネラルなど)の補給を目的としたもので、国が定めた規格基準に適合したものであれば、その栄養成分の健康機能を表示できる。」に改正されている。
11	P31	問題29 解説	c 正 問題文の通り。	c 正 問題文の通り。※現行の手引きでは削除となった内容である。
12	P31	表 上から1つ目 特定保健用食品の 特徴 下から2～1行目	国の審査を受けたものである	国の審査を受け、許可されたものである
13	P33	問題32 解説	d 誤 小児への使用を避けるべき医薬品を「子供だから大人用のものを半分にして飲ませればよい」として服用させるなど、安易に医薬品を使用するような場合には、特に有害事象につながる危険性が高い。	d 誤 小児への使用を避けるべき医薬品を「子供だから大人用のものを半分にして飲ませればよい」として服用させるなど、安易に医薬品を使用するような場合には、特に副作用につながる危険性が高い。※現行の手引きでは、「有害事象」が「副作用」に改正されている。
14	P39	問題38 解説	c 誤 医薬品の使用上の注意においては、おおよその目安として65歳以上を「高齢者」としている。	d 誤 「医療用医薬品の添付文書等の記載要領の留意事項」は、おおよその目安として65歳以上を「高齢者」としている。
15	P45	問題43 解説	b 誤 医薬品の使用上の注意において、おおよその目安として、乳児は1歳未満、幼児は7歳未満、小児は15歳未満との年齢区分が用いられている。	b 誤 「医療用医薬品の添付文書等の記載要領の留意事項」において、おおよその目安として、新生児は生後4週未満、乳児は生後4週以上、1歳未満、幼児は1歳以上、7歳未満、小児は7歳以上、15歳未満との年齢区分が用いられている。

第2章 人体の働きと医薬品

No.	頁	該当箇所	誤	正
1	P49	問題2 解説	エ 誤 副腎髄質では、自律神経系に作用するアドレナリンとノルアドレナリンが産生・分泌される。副腎皮質では、体内に塩分と水を貯留し、カリウムの排泄を促す作用があるアルドステロンが分泌される。	エ 誤 副腎髄質では、自律神経系に作用するアドレナリン(エピネフリン)とノルアドレナリン(ノルエピネフリン)が産生・分泌される。副腎皮質では、体内に塩分と水を貯留し、カリウムの排泄を促す作用があるアルドステロンが分泌される。
2	P49	表 右側の枠 下から1つ目 下から1行目	※精神的緊張による発汗は手のひらや足底、脇の下の皮膚に限って起こる	※精神的緊張による発汗は手のひらや足底、脇の下、顔面などの限られた皮膚に生じる
3	P51	問題4の表 適する場合の欄 下から1つ目	患部が乾燥していたり患部を水で洗い流したい場合	患部を水で洗い流したい場合
4	P53	問題6 解説	エ 誤 軟膏剤、クリーム剤は、有効成分が適用部位に留まりやすいという特徴があり、適用部位を水から遮断したい場合には軟膏剤を用いる。クリーム剤は、患部が乾燥していたり患部を水で洗い流したい場合等に用いることが多い。	エ 誤 軟膏剤、クリーム剤は、有効成分が適用部位に留まりやすいという特徴があり、適用部位を水から遮断したい場合には軟膏剤を用いる。クリーム剤は、患部を水で洗い流したい場合等に用いることが多い。
5	P59	問題11 解説	a 正 問題文の通り。	a 正 問題文の通り。※現行の手引きでは、「角膜に一定の圧」が「眼内に一定の圧」に改正されている。
6	P59	問題11 解説	b 正 問題文の通り。	b 正 問題文の通り。※現行の手引きでは、「個々の視細胞は神経線維につながり、それが束なって眼球の後方で視神経となる。」が「視細胞が受容した光の情報は網膜内の神経細胞を介して神経線維に伝えられる。網膜の神経線維は眼球の後方で束になり、視神経となる。」に改正されている。
7	P67	問題20 解説	d 誤 一般に、消化管からの吸収は、濃度の高い方から低い方へ受動的に拡散していく現象である。	d 誤 一般に、消化管からの吸収は、濃度の高い方から低い方へ受動的に拡散していく現象である。※現行の手引きでは、「消化管が積極的に医薬品成分を取り込むのではなく、」の文章が削除されている。
8	P99	問題52 解説	b 誤 小腸などの消化管粘膜や腎臓にも、かなり強い代謝活性があることが明らかにされている。	b 誤 小腸などの消化管粘膜や腎臓にも、代謝活性があることが明らかにされている。
9	P103	問題56 解説	b 正 問題文の通り。	b 正 問題文の通り。※現行の手引きでは、「小柄な人」が「低身長、低体重など体表面積が小さい者」に改正されている。
10	P105	問題58 解説	b 誤 副腎は、左右の腎臓の上部にそれぞれ附属し、副腎皮質からはアルドステロンが、副腎髄質からはアドレナリンとノルアドレナリンが産生・分泌される。	b 誤 副腎は、左右の腎臓の上部にそれぞれ附属し、副腎皮質からはアルドステロンが、副腎髄質からはアドレナリン(エピネフリン)とノルアドレナリン(ノルエピネフリン)が産生・分泌される。
11	P107	問題60 解説	d 誤 副腎髄質では、自律神経系に作用するアドレナリンとノルアドレナリンが産生・分泌される。副腎皮質では、副腎皮質ホルモン(アルドステロンなど)が産生・分泌される。	d 誤 副腎髄質では、自律神経系に作用するアドレナリン(エピネフリン)とノルアドレナリン(ノルエピネフリン)が産生・分泌される。副腎皮質では、副腎皮質ホルモン(アルドステロンなど)が産生・分泌される。
12	P109	問題62 解説	c 誤 末梢神経系のうち体性神経系は、随意運動、知覚等を担う。呼吸や血液の循環等のように生命や身体機能の維持のために無意識に働いている機能を担うのは、自律神経系である。	c 誤 末梢神経系のうち体性神経系は、随意運動、知覚等を担う。消化管の運動や血液の循環等のように生命や身体機能の維持のために無意識に働いている機能を担うのは、自律神経系である。

第2章 人体の働きと医薬品

No.	頁	該当箇所	誤	正
13	P115	問題68 解説	d 誤 無菌性髄膜炎は、髄液に細菌・真菌が検出されないものをいう。大部分はウイルスが原因と考えられているが、マイコプラズマ感染症やライム病、医薬品の副作用等によって生じることもある。	d 誤 無菌性髄膜炎は、髄液に細菌が検出されないものをいう。大部分はウイルスが原因と考えられているが、マイコプラズマ感染症やライム病、医薬品の副作用等によって生じることもある。
14	P119	問題72 解説	眼球内の角膜と水晶体の間を満たしている眼房水が排出されにくくなると、眼圧が上昇して視覚障害を生じることがある。例えば、抗コリン作用がある成分が配合された医薬品によって眼圧が上昇することがあるため、緑内障のある人では嚴重な注意が必要である。	眼球内の角膜と水晶体の間を満たしている眼房水が排出されにくくなると、眼圧が上昇して視覚障害を生じることがある。例えば、抗コリン作用がある成分が配合された医薬品によって眼圧が上昇することがあるため、緑内障のある人では嚴重な注意が必要である。※現行の手引きでは、「緑内障」が「眼房水の出口である隅角が狭くなっている閉塞隅角緑内障」に改正されている。
15	P125	問題77 解説	d 誤 一般に、ショック(アナフィラキシー)では皮膚の痒み、顔面蒼白、冷や汗、息苦しきなど、複数の症状が現れる。一旦発症すると病態は急速に悪化することが多く、適切な対応が遅れるとチアノーゼや呼吸困難等を生じ、致命的な転帰をたどることがある。	d 誤 一般に、ショック(アナフィラキシー)では皮膚の痒み、顔面蒼白、冷や汗、息苦しきなど、複数の症状が現れる。一旦発症すると病態は急速に悪化することが多く、適切な対応が遅れるとチアノーゼや呼吸困難等を生じ、死に至ることがある。
16	P127	問題79 解説	d 正 問題文の通り。	d 正 問題文の通り。※現行の手引きでは、「脇の下で皮膚に限って起こる。」が「脇の下、顔面などの限られた皮膚に生じる。」に改正されている。
17	P127	問題80 解説	2 正 問題文の通り。	2 正 問題文の通り。※現行の手引きでは、「(関節膜)の外側には靭帯がある」が「(滑膜)は軟骨の働きを助け、靭帯は」に改正されている。
18	P129	問題81 解説	1 正 問題文の通り。	1 正 問題文の通り。※現行の手引きでは、「個々の視細胞は神経線維につながり、それが束なって眼球の後方で視神経となる。」が「視細胞が受容した光の情報は網膜内の神経細胞を介して神経線維に伝えられる。網膜の神経線維は眼球の後方で束になり、視神経となる。」に改正されている。
19	P137	問題90 解説	d 正 問題文の通り。	d 正 問題文の通り。※現行の手引きでは、「最小有効濃度未満の濃度域と、」が「最小有効濃度と」に改正されている。